

## 「桃李成蹊」

### 1. 「李広」

鹿児島県のFacebook友達である石岡さんが倫理法人会のモーニングセミナーで「桃李成蹊」（とうりせいけい）という言葉が学ばれて「徳」ということを書いておられました。私も素晴らしいことだと思いメッセージを送りました。さて、この言葉をネットで調べると「桃李不言下自成蹊」という史記の言葉で『桃や李（すももの木）は物を言わないが、美しい花を咲かせ、美味しい実をつけ、人々が集まって、木の下に自然に道ができていく。』とあります。さらに、『紀元前1世紀に司馬遷が著した『史記』の中で、漢の時代の軍人・李広を評して記した言葉だ。李広は、無口、無欲で、恩賞はすべて部下に分けてやった。食べ物や飲み物も、全員に行き渡るまで口にできなかった。部下たちは、そんな将軍に強い敬意を抱き、死をも厭わぬ覚悟で戦に臨んだ。』と解説されています。

解説にもあるように、この言葉の主人公「軍人・李広」は、wikipedia によると漢の飛将軍（ひしょうぐん：匈奴が漢の李広を恐れて 呼んだ称から行動が迅速で武勇のすぐれた将軍の事を指す綽名）と恐れられたほどの武勇の人だったそうです。この部下を優先する姿勢に感銘して命を捧げたのです。参照：<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%8E%E5%BA%83>

素晴らしいリーダーシップのあり方を示しており、現実の私を含めて経営者・リーダーと呼ばれる方々の「鏡」となるような教えであります。さすが、倫理法人会のモーニングセミナーと思います。しかし、現実を見てみると、李広のような方は、どれほどいらっしゃるのでしょうか。私も含めて「我欲」を抑えることが出来ることの重要性を示す教えです。安い月給で働かせて自分ばかり豪華な生活をしている方々も多数おられるのも事実なので、非常にインパクトのある話です。特に、親の七光りでヌクヌクと立場にたっている方には、非常に耳の痛い重要な話であります。

### 2. 「人徳」

「徳を積む」と言いますが、まず、徳という意味を辞書で調べますと

- 1 精神の修養によってその身に得たすぐれた品性。人徳。「一が高い」「一を修める」→徳目
- 2 めぐみ。恩恵。神仏などの加護。「一をさずかる」「一を施す」
- 3 ⇒得(とく)
- 4 富。財産。
- 5 生まれつき備わった能力・性質。天性。

とあります。また、論語では「徳は孤ならず必ず隣あり」（徳のある者は孤立することがなく、理解し助力する人が必ず現れる。）とあるとも紹介されています。

私たちが普段「徳」という場合、1の「人徳」を思い浮かべ、精神修養のように思います。すなわち、仁徳天皇の「仁徳」は「にんとく」は「じんとく」でもあり、意味は「仁愛の徳。他人に対する思いやりの心」とあるように思いやりのように考えがちです。しかし、2～4の意味から考えるとベースに「富、財産」があることが必須のように思います。

とは言うものの、そればかりでは味気ないですね。確かに、財産があるところに人は集まると言えますが、それは財産目当てであり、本心ではないケースが多いのです。お金を施されてもお付き合いするのをお断りしたい方もいるのも事実です。施しばかりでなく仕事でも同じなのですが、見せびらかして「これが欲しいか」とばかりに接しられるとお断りしたくなるは通常の人情ではないかと思えます。

### 3. 向日性の原則

私は、5番目の「生まれつき備わった能力・性質。天性。」も重要と思います。陰気と陽気と比較

すると陽気な方を選ぶと思います。「向日性の原則」という言葉がありますが、植物の茎などが太陽光線の強い方へ向かって 屈曲する性質を本来もっているのです。人間も本来なら、この原則に従うのですが、例外的に「欲」が勝ってしまって「背日性」の人を好む人もいます。

今回の「桃李成蹊」というテーマでは、私は「向日性」がキーとなると考えます。人間的な意味で「向日性」とは「元気で明るい言動で楽しくなれる」という事になります。いくら為になる話をしていても楽しく響かないのでは人の心をつかまえることができないのです。「楽しく響く」という意味では「笑い」という点に収斂すると考えます。「笑」は「心」をオープンにした状態なのです。「鏡の法則」と言いますが、自分がオープンになれば、相手もオープンになれるのです。この笑いのある楽しい状態が精神をリラックスさせて心身をリフレッシュしてくれるのです。

「楽しい」や「笑い」は「芳しい匂い」と言えます。人格者となる為には必須の条件だと思います。自ら元気で明るく過ごしており、話ではジョークを交えて楽しく会話できるという点を心掛ける必要があります。その上で「おごる」という事を戒める必要があります。Facebookでも、「おごり」が見え隠れする方がおられます。そういう方は、よいメッセージを発信されても「いいね」って素直に反応できないのです。まさに、李広が部下に接したように「実るほど頭をたれる稲穂かな」が必要なのです。この点を気づいていない人が多いように思います。

#### 4. 「金の匂い」x「未来」

さて、人が集まるという条件の一つに「華」という要素もあります。輝かしい実績も「華」の一つですが、私はセミナーなどで「舟木一夫が、再起を期してマネージャーに相談に行ったら、金の匂いがない」と言われたという事です。「金の匂い」が重要ですね。「きんきら金」では「匂い」ではなく「臭い」となってしまいますが、金に困っているのは「オーラ」に欠けるのです。稲盛さんは「土俵の真ん中で仕事しろ」と言われていますが、何事も懐に余裕が必要なのです。

最後の結論が「金の匂いかよ」と思われると思いますが、幾ら「生き方」が素晴らしい方でも「貧乏」では人は寄って来ないのです。そして、寄ってきても「楽しい」は勿論のことですが、「未来」への勢いが必要です。化石になろうとする人には寄って来ないのです。常に、未来へのメッセージが重要だと思います。

ちょっと極論になりますが、現在、家電メーカーが苦しんでいるのは「未来」への展望が描けないからだと思うのです。企業としても個人としても「未来」という要素は非常に大きいものがあります。ドラッカー先生の教えを凝縮すると「顧客創造」と「R&D」が企業経営の2大課題となるようです。お客が欲しがると商品を開発することが重要なのです。この点を中小零細企業が実践するには、「商品」or「技術」or「サービス」のいずれかの部分でオンリーワンになるという努力を続けることとなります。多くの方は「他力」にすがろうとされますが、「自助」の部分が重要なのです。

私は、自らの責任で「未来」への投資が重要だと思っています。企業の生業で「投資」の性格が変わりますが、「投資」という「自助」が積極的な「未来」を切り開くと考えています。販売業でも「販売促進費」を予算化して、自ら「オーラ」を発信できるようにすべきと考えています。これが出来なくなるまで追い込まれないように日常をシッカリと活動して行きたいと思っています。